

東京都臨床工学技士会 災害対策委員会 活動報告

1、東京都透析医会・東京都区部災害時透析医療ネットワーク・三多摩腎疾患治療医会との連携

現在、東京都における透析医療の災害対策は、東京都透析医会を中心に東京都区部災害時透析医療ネットワーク・三多摩腎疾患治療医会が活動を行っております。これらのネットワークとともに東京都臨床工学技士会災害対策委員会もその一角を担う役割として日々、情報収集および情報共有を行っております。

2022年9月11日には東京都透析医会が主体として「第5回東京都透析災害対策セミナー」が開催されました。当日は、医師だけではなく、看護師・臨床工学技士など透析に関わる様々なスタッフが300名以上参加いただき、大変盛況な会となりました。



2、関東甲信越臨床工学技士協議会 災害情報伝達訓練の実施。

2022年度までの災害情報伝達訓練は、千葉県・茨城県・埼玉県・群馬県・栃木県・神奈川県・東京都の1都6県で実施しています。2022年度における参加施設は、271施設（69.31%）と比較的多くの施設に参加いただきました。しかし、当委員会としては100%の参加率を目指しているおり、その第一歩として災害対策に興味を持っていただけるような企画を実施していければと考えております。

2023年度より従来の1都6県だけではなく、「山梨県・長野県・新潟県」を加えた1都9県で関東甲信越臨床工学技士協議会が発足されました。首都直下型地震では、東京都だけではなく隣接する県においても被災する可能性が示唆されるため、より広域な患者搬送を想定した災害情報伝達訓練を2023年9月1日から2日間に渡り実施する予定です。訓練を通して、来る災害において当委員会も患者さまの命を繋ぐ架け橋の一つなればと考えております。

3、より強固な災害対策を目指したブロック化

現在、当委員会は、23区内を7ブロック、多摩地区を5ブロックに区分けし、12ブロックで活動を進めております。各地域にブロック長を設置し、近隣施設との繋がりをより強固にするための連携会やセミナー活動を実施しています。また、東京都全体の情報伝達訓練だけではなく、各医療圏でDIEMASを用いた情報伝達訓練も行っております。

現在、DIEMAS登録率は90%程度となり、情報伝達ツールとして大きな役割を担える状況に発展してきています。しかし、発災時に情報伝達ツールとして活用するためには、平時より使用方法などを十分に理解することが重要だと考えています。そのため、引き続き皆さまにDIEMASについて理解していただけるような場を企画し運営していきたいと思っております。

